

# 広島大学学術情報リポジトリ

## Hiroshima University Institutional Repository

Title	大学生の情報行動の変化とデジタルコンテンツとの関係性に関する調査研究：出版事業の課題と可能性をめぐって
Author(s)	後藤, 淳子
Citation	広島大学マネジメント研究, 23 : 43 - 43
Issue Date	2022-03-26
DOI	
Self DOI	
URL	<a href="https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00052196">https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00052196</a>
Right	Copyright (c) 2022 by Author
Relation	



# 大学生の情報行動の変化と デジタルコンテンツとの関係性に関する調査研究

—出版事業の課題と可能性をめぐって—

後藤 淳子

## 1. 研究の背景と問題意識

1982年頃、世界で初めてインターネットという概念が誕生し、それから、わずか40年程で、社会における欠かせないインフラへと変化を遂げた。インターネットは情報の発信や受信だけではなく、不特定多数の人とのコミュニケーションを生み出す機会を増大させた。

インターネットの利用時間が増えるのと同時に、既存のメディアである本の読書時間は減少傾向にある。2020年に全国大学生生活協同組合連合会が行った調査によると、現在、大学生の47.2%が一日の読書時間が0分であるとの結果が出ている。

本から離れて長文を読まなくなることで、文章の創作力を失わせるだけではなく、それが表現力の低下につながり、さらには背後の意図や関係性を読み取る力が失われコミュニケーション力をも衰えさせると考えられる。また知識を構築して思考を深め、論理的な思考を養うことが困難になり、その状態が恒常化することにより学力の低下を招く可能性も指摘されている。このような問題意識から、本研究が必要だと考察するに至った。

## 2. 研究の対象と研究の目的

本研究では情報行動という側面から、現在、日本の大学生を対象とし、学生がどのように情報を得ているのかを調査した。またデジタルデバイスを利用したデジタルコンテンツが、大学生の情報行動にどのような影響を与えているのかを研究した。その目的は大学生の読書離れを防ぎ、国語力を維持するために、何が必要なのかを明らかにすることである。

## 3. 先行研究と問題点

まず初めに、大学生の情報行動とデジタルコンテンツに関する先行研究を調査した。次に「出版およびそれに関連する事項の調査、研究を行い、出版文化の向上に資することを目的として活動」している日本出版学会が発行する『出版研究』の論文タイトルを調べ、そのキーワードの変遷から、出版事業が時代ごとに、どのような変化を遂げたのか調査した。さらに出版事業に関する先行研究をまとめた。

先行研究の問題点として、①現在、急激に変化しつつある大学生の情報行動への研究が不足していること、②大学生のデジタルコンテンツの利用状況が明らかになっていないこと、③として、それらを踏まえた出版事業者の対応策が明確ではないことが問題点として把握できた。

## 4. 研究方法

2021年10月から11月にかけて、主に関東圏と広島県の大学生94名に大学生の情報行動およびデジタルコン

텐츠利用の状況に関するアンケート調査を行い、その結果をまとめ、分析した。

そして、2021年11月から12月にかけて出版関係者9名に半構造化インタビュー調査を行った。その内容を基に日本の出版事業の問題点と対策を考察した。

## 5. 大学生の情報行動およびデジタルコンテンツ利用の状況に関する調査

大学生へのアンケート調査では、図書館の利用の有無や大学図書館のホームページへのアクセス、デジタルコンテンツの利用頻度、新型コロナウイルスの影響で、情報行動がどのように変化したのかを調べるため、利用時間が増えた行動等について聞いた。

## 6. 出版事業の現状と問題点

消費者である大学生だけではなく、本を提供している出版事業についても調査を行った。日本の出版事業は、他国と比べても独自の流通や販売のシステムを持つ。そこで、出版事業が盛んな欧米の3か国であるアメリカ、イギリス、ドイツとの比較を行い、まず日本が出版大国となった経緯を調べ、日本の出版史や出版流通にも触れながら、現状の問題点を見直した。

## 7. 結論と今後の課題

研究の結果、大学生の情報行動が変化をしていることが明らかとなった。①紙、デジタルを問わなければ、書籍や雑誌を読む時間が増えたと答える学生も多く、「読書離れ」とはやや異なる実態が明らかになった。②また、学生は必ずしも本の電子化を求めているわけではないこともわかった。③しかし、現状は紙の本が便利に利用されているとしても、デジタル化の波は社会に必ず大きな変革をもたらすと考察した。④もちろん、紙の本からのデジタル化への移行は出版事業者側でも進んでおり、さらに新しい強みを生み出す模索が行われている。⑤出版事業は、コンテンツ制作事業のひとつである。魅力的で価値あるコンテンツ制作とその適切な表現を強化していくことが、これからも求められている。

今後の課題として、大学生が現在も紙の本の有用性を感じていることが明らかになったが、その理由までは調査が及ばなかった。また、現在の covid-19の影響を大きく受けた特殊な環境下から脱した際に、大学生の情報行動に変化が起こると予測できる。よって今後の調査の継続も課題のひとつだ。そして、大学生の読書行動に対する一層の研究の必要性を感じた。大学生の読書行動や読書文化を調査研究は、日本の読書文化や出版文化の一端を知ることにつながると考察する。以上のことを今後の研究課題とする。